

2025年 世界の文化を学ぶ会 講演会

2025年9月3日 14:30~16:00

出席者 32名



スピーカー 岡毅一郎氏

インタビュアー 竹村美衣子

「岡毅一郎氏のダンディズム —ボランティア精神 生き方—」

日頃、洗練された美しい色合いを上手に着こなしておられる、ご存じ岡セツ子さんの伴侶でいらっしゃる岡毅一郎さん、今日は、その色彩学を生活の中にどのように取り入れられるようになったかについてお話いただきたいと思います。

初のインタビュー形式で進めてまいります、合わせて退職後、旺盛なボランティア精神を発揮しての様々なご活躍や、その生き方についても、お聞かせいただきます。

調和のとれた色の組み合わせなど、その色彩感覚を学ばせていただきたく、今日は岡毅一郎の「色の道」！？をお教えいただきましょう。

Q. 先ず、服装における色彩をどのようにご自分の中に取り入れられるようになったのですか？

A. 33歳の時、今から50年前、家族でヨーロッパを旅行した時に、イタリアで皆、実にカラフルな装いで、ブルーやグリーンの鮮やかな色を見事に着こなしているのがとても印象に残りました。「年齢を重ね、自分も年を取ったら、こうしたきれいな色を着こなしたい！」と思ったのがきっかけです。

Q. あなたの TPO に合わせて服装を楽しむご様子に、いつも感心しているのですが、例えば今春のお花見に皆で繰り出した時このカラフルなセーターをお召しでした。

→
人混みの中で目立つように、私もあえてミロの世界のようなカラフルなセーターを着て、二人で“派手派手”に決めて目立っていました。お陰で友人家族の目に留まり偶然の出会いにも繋がりましたね。



Q. ご夫妻で外出なさる時もマッチングして、調和がとれるよう二人で素敵にコーディネートして外出されていて感心します。今日のお二人は色違いのお揃いですね。

A. はい、これは30年前のF1ラリーの時のものです。体形が変わらないので30年40年と長く着られます。男性が派手目、女性が地味目、“鳥の世界”のようです。オンドリ夫婦→



Q. ほれぼれとする生き方をしておられると私は常々思うのですが、参考にされてきた人物はおられますか？

A. 山口県萩の出身ですので、吉田松陰です。学者であり 指導者であり、子供の頃から尊敬の的でした。地元では吉田松陰と呼び捨てにすることはなく、吉田松陰先生と呼んで、親しまれています。

Q. 吉田松陰の説く「至誠」とは？ 「至誠^{もと}に悖るなかれ」ともいわれます。

A. 吉田松陰の中心的思想で、柱となる教えです。「真心を込めて、私心を捨て人に接し努力しなさい、話をしなさい。一生懸命人に接すれば、聞く人は理解してくれる。」というものです。



Q. 退職後、数々のボランティアをなさって、MIA でもボランティアとして様々な場で支えていただきました。東日本大震災後も現地に駆け付け、ボランティア精神で活躍されました。他にも、いろいろボランティアをしてこられましたね。

A. 「川崎市民アカデミー」を受講後、川崎市民として恩返しをしたいと思い、お誘いを受けて、以来市民のためのボランティアをいろいろしてきました。

- ・川崎市の「宮前区地域教育会議」では、市民と学校の連携、道路マップ、子供の権利に関する条例などにも、広報担当として携わりました。

- ・宮前区市民の安心・安全を目指し区役所に答申したり、いろいろ揉まれました。

- 「市民会議」の「よろず相談」を担当し、相談事を聞いて、弁護士など専門家に繋げたりしました。反論しない、そして満足して帰っていただくように極力努めました。

- ・東名川崎インターを出たところはひどいゴミ捨てのたまり場になっていました。きれいにしたらどうかと区役所に提案し、土橋町内会の方々と清掃に協力し、3年間ほど、お花を植えて、ゴミ拾いをしていましたら、ポイ捨てが激減しました。町内会も学校も協力してくれました。

Q. このように退職後、地域社会に素晴らしい貢献を何年間もなさいました。

その他、お家でも、お母様の介護で素晴らしい協力体制で取り組まれたそうですね。

A. 母が96歳で大腿骨骨折で入院。その後100歳で体調を崩し4ヶ月入院。家に帰りたいたの本人の希望があり、地域包括センターに相談し、子供4人でシフトを組んで24時間体制で介護しました。終わりが見えない介護は精神的にも肉体的にも大変疲れ、参りました。疲労困憊して倒れると伴侶がピンチヒッターとして入りました。ベネッセのお陰で母は102歳まで頑張りました。

Q. 終の棲家のマンションを探しておられましたが、結局ご自宅を新築なさいました。白亜の殿堂！

断捨離もしっかりなさって。最近25日間豪華地中海クルーズも楽しめました。

話は「色の道」に戻りますが、コーディネートの参考例をシャツ、ズボン、靴のカラフルな組み合わせで、こちらにお示しいただいています。

どうぞ参考になさって、皆様、ご主人を磨き上げて差し上げてくださいませ。



セツ子さんのお母様の色彩感覚の素晴らしさ！
見事な手編みセーターです。

Q. 今後については？

A. 若い人も黒っぽいものばかりではなく、美しい色のものを着て楽しみ、個性を発揮し、モチベーションを上げて行ったらいいのではないかと思います。

今の日本の状況は良くなく将来どうなるか心配です。人口減、働き手も少く、持続運営ができなくなる企業も増えてくるとなると、行政頼みではなく「将来的には自分の身は自分で守る」気概を持つことが必要なことでしょう。

地域に小さなコミュニティーが形成され、共通の目的を持ち、MIAのように親しくなった人との絆を強くし、ご縁を大切に育み育てていけば、お年寄りが孤立することなく過ごせることでしょう。

インタビュアー結び

今も市民大学で勉強し続けておられる
とのこと、敬服します。

全国的にオヤツの時間！

終了後は花と共に美しく並んだお茶とお茶菓
子でティータイム。

楽しい延長戦のお話があちらこちらで弾みました。

